

■文書等所蔵施設の被害調査まとまる!!

本ニュース第6号でもお知らせしていましたが、文化庁が取り組む科学研究「美術工芸品等の防災に関する調査研究」の一環として取り組まれていた「阪神・淡路大震災における文書等所蔵施設被害調査アンケート実施結果報告書」が、このほどようやくまとめられました。

この調査は、震災被害の実態をもとに、文書館をはじめとする文書等所蔵施設固有の防災対策を考えていこうというもので、上記科学研究の研究分担者である神戸大・奥村弘氏の指導のもと、西宮市行政資料室嘱託の豊田美香氏・福重綾子氏が調査を行ない報告をまとめたものです。

報告書では、文書等所蔵機関23施設の震災被害について、アンケートおよび聞き取り調査、現地調査にもとづいて詳しく分析・紹介されており、それをもとに文書等所蔵施設の防災対策のポイントを提言しています。なかでも、とすれば収蔵史料の防災対策に意識が偏りがちな傾向に対して、施設内の人員、それも利用者と職員の両方が大規模災害時には大きな危険にさらされる恐れがあるが、そのことがかならずしも施設設計や設備上は考慮に入れられていないこと、災害復旧時の財政制度上の制約などから、危険性のある従来の設備をそのまま復旧しているケースがほとんどであることなど、実例にもとづいた説得力のある指摘と提言を行なっています。

この報告書は、文化庁による上記の科学研究全体の報告書にも収録され、提言の論点も盛り込まれていく予定です。また、防災委員会を設けて文書館施設の防災対策を検討している全史料協や、同近畿部会の場でも活用すべく、関係者の間で協議中です。

■文南大青年幸辰

近刊の文献に掲載された、史料ネット関連の論文、報告等を紹介します。

佐々木和子 「第2回震災資料の保存と編さんに関する研究会」参加記

(昨年10月に21世紀ひょうご創造協会との共催により神戸大学で開催した研究会の参加報告です)

岩城卓二 市民とともにつくる尼崎市史とは?—「歴史と文化を考えるシンポジウム」参加記—

(昨年10月に尼崎市との共催により開催した第6回市民講座の参加報告です)

いずれも『地方史研究』265号(第47巻第1号、1997年2月、地方史研究協議会発行)に掲載

村上友子 第2回「震災資料の保存と編さんに関する研究会」の記録

『歴史と神戸』200号(第36巻第1号、1997年2月、神戸史学会発行)に掲載

◇今回は、ネットへの声の特集号をお届けしました。読者の皆様のご感想はいかがでしょうか。

今後とも、ニュースレターの感想や史料ネットへのご意見をどしどしお寄せください。

◆4月には史料ネットも新たな年度を迎えます。新年度の体制・方針等は次号でお知らせする予定です。次々と新たな課題が出現し、限られた人員で対処するのにバンク状態の史料ネット。皆様のご支援をお願いします。

◇このニュースレターの郵送購読の申込みを受け付けています。ご希望の方は、ネットセンターまでお問い合わせください。

史料ネット NEWS LETTER No. 8	1997. 3. 19 (水)
編集・発行 歴史資料ネットワーク 〒657 神戸市灘区六甲台町1-1	
神戸大学文学部内 TEL. 078-881-1212 (内線呼出・史料ネット)	
FAX. 078-803-0486	
e-mail yfujita@lit.kobe-u.ac.jp	(1部 100円)